

持続可能なムーバス運営に向けた取組内容（例）

乗務員の採用活動を強化

- 交通事業者は、改善基準告示の改正に対応した運行体制を構築するため、乗務員の確保に向けた採用活動をさらに強化します。大学や専門学校等への訪問、採用イベントの積極的な参加、WEB・SNS等を活用した広報活動を継続して実施します。
- 市は、令和8（2026）年度からの3年間で「緊急採用支援期間」と位置付け、路線バスとムーバスの採用活動と離職防止対策を支援する新しい制度を創設します。



持続可能な運行システムへの再構築

- 市とバス事業者は、ムーバスの7路線・9ルート全てを対象として、ムーバス利用者の利用実態調査等から移動目的や利用時間帯等を整理した上で、現在の運行ルートやダイヤの評価・検証を行います。また、乗務員不足に伴うダイヤ改正による利用者への影響等を分析し、持続可能な運行システムへの再構築を行います。
- 市とタクシー事業者は、乗務員不足によりムーバスの減便が避けられない場合、市民・利用者への影響が大きいと想定される際には、道路運送法第21条に基づくタクシー事業者等による代替輸送についても検討します。



武蔵野市方式のデマンド交通等の検討

- 市は、レモンキャブの登録対象外であっても、身体的な理由等からバスの利用が困難、またはバス停までの徒歩移動が負担になっている要支援者等の移動制約者及び運転免許返納をした高齢者等を対象にした、エリアを限定した武蔵野市方式のデマンド交通やドア・ツー・ドア型交通サービス（ファーストワンマイル・ラストワンマイル）等の導入可能性を検討します。
※その際は、既存の公共交通との重複・競合を避け、市内の交通資源を有効に活用することに留意します。



武蔵野市地域公共交通計画

令和8年3月

武蔵野市 都市整備部 交通企画課

〒180-8777

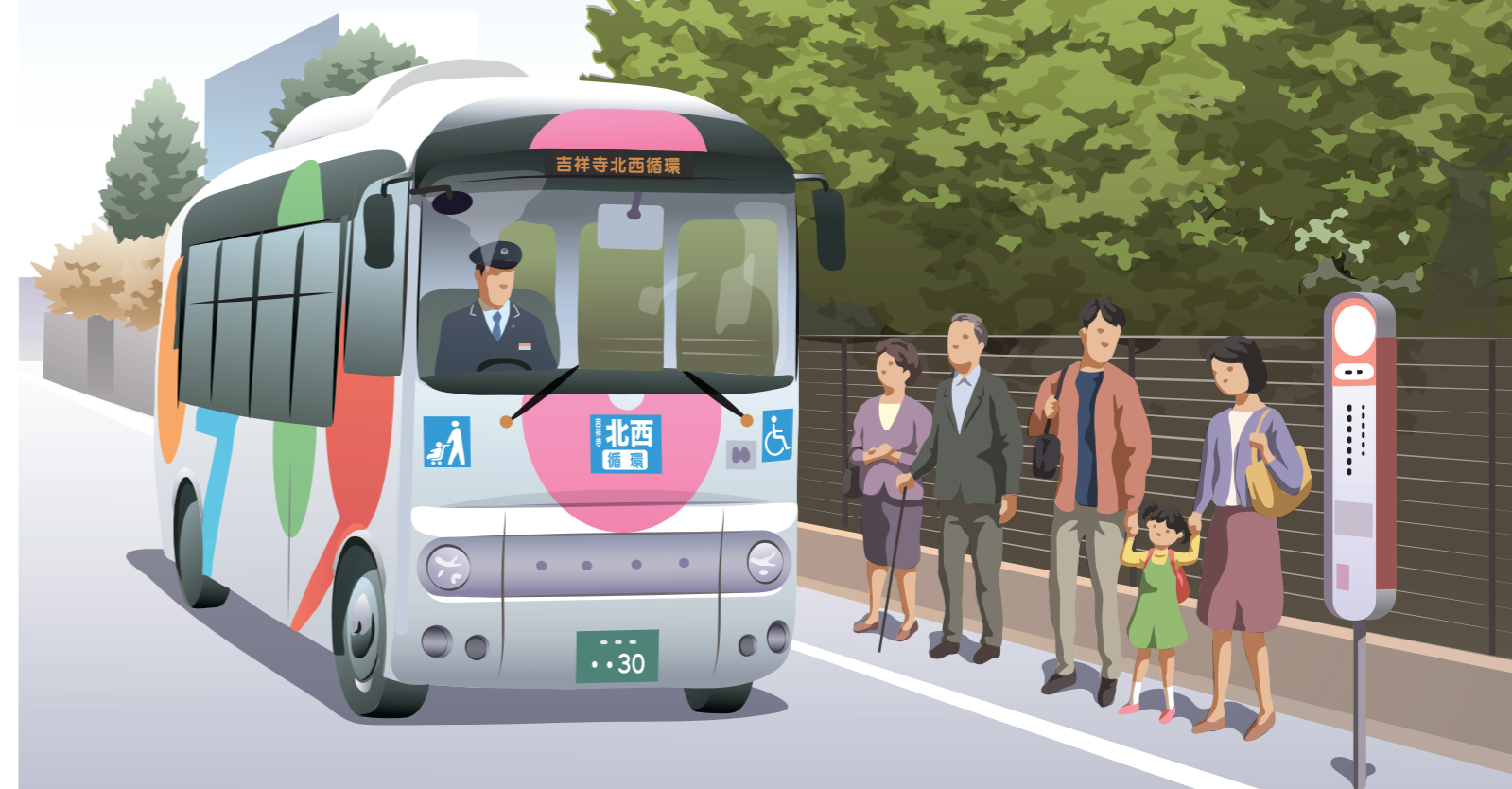
東京都武蔵野市緑町2丁目2番28号

電話 0422-60-1859

武蔵野市 地域公共交通計画

2026～2035
(令和8年度～17年度)

概要版



1 計画の目的と位置付け

- 地域公共交通計画とは、市が目指す将来像を実現する上で、地域公共交通が果たすべき役割を明確にするとともに、市民の生活と移動を支援し、持続可能な地域公共交通を実現するための基本理念、目標、基本方針及び施策体系を定める。
- 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、地域公共交通に関する取組みを推進するために定めた法定計画である。

1 計画の期間

- 令和8年度から令和17年度までの10年間とする。
- 基本理念・基本方針・基本施策は今後10年間を展望する。個別施策は今後5年間で実施すべき施策であり、適宜社会状況等を踏まえ見直しを行うとともに、おおむね5年後を目途に新たな個別施策を位置付ける。

1 改定のポイント

- 65歳以上の老年人口の増加に伴う移動ニーズの多様化等、地域公共交通を取り巻く環境の変化に対応した。
- 本市でも深刻化する地域公共交通の担い手不足に対応する施策を位置付けている。
- 前期の5年間は、ムーバスの持続可能性を高める施策を重点的に取り組んでいく。

3 ムーバスのコンセプトの再整理

- 運行当初から守り続けている「市民も利用者がみんなで支える」という理念を守り、ムーバスの果たすべき役割や価値を市民・利用者と共有していくことを再整理した。
- 乗務員等の担い手不足を踏まえ、運行ルートやダイヤの評価・見直し、運賃のあり方、経費の見直し等、今後はムーバスの運営全般を総合的に検証し、再構築を図る。

【不易】変わらない普遍的・本質的な価値

- (A) 質の高い路線バスとともに運営していく
- (B) 高齢者と子育て世代等が安心して外出できる
- (C) 市民も利用者がみんなで支える

【流行】変えていく・強化していく価値

- (D) 路線バスとムーバスの担い手を確保していく
- (E) ムーバスの持続可能性を高めていく
- (F) 「まちの公共インフラ」であるムーバスの価値を周知していく

5 計画の推進及び評価方法

- 主な評価指標 (KPI) 現状値 (R6) 目標値 (R12)
バス乗務員数の充足数 : 1,031人 ⇒ 1,031人
公共交通の満足度 : 65.8% ⇒ 75%
- 毎年の地域公共交通活性化協議会への進捗報告と併せ、社会状況等に応じて、事業評価・KPIの再設定も検討する。

3 基本的な方針・目標

- 多様な交通手段を組み合わせ、市民ひとりひとりのライフステージに応じた、移動のしやすさを目指す。
- 本市の地域公共交通ネットワークは、鉄道や路線バスの基幹交通が「ベース」にあり、タクシーやレモンキャブ等の補完交通が「オプション」として選択の幅を広げている。ムーバスは、基幹交通と補完交通の両方を担っており、高齢者や子育て世代が安心して外出できる「地域の足」になっている。
- ソフト対策とハード対策を基本方針の軸として位置付け、それらを支える横断的な手段として新技術（テクノロジー）を活用していく。

2 地域公共交通を取り巻く現状と課題

- **深刻な担い手不足への対応が急務である**
⇒公共交通の担い手（乗務員、整備士、事務員）が不足し、高頻度運行の継続が困難になりつつある。まずは乗務員の高齢化が今後進行することを踏まえ、乗務員の採用強化や離職防止対策等の取組みが喫緊の課題である。
- **ムーバスだけでは多様な市民ニーズに応えきれない**
⇒市民の利用目的は多様化しているが、ムーバスだけでは多様なニーズには応えきれない現実的な課題がある。また、運行開始から30年が経過し、ムーバスの価値をこれまで以上に市民・利用者と共有していく必要がある。
- **公共交通の利用に不便を感じている市民がいる**
⇒足腰が弱くなり公共交通が利用しづらくなったとしても、すぐにレモンキャブは利用できない。また、中央線から離れた地域における東西方向の移動等、不便を感じている方が一定数存在する。
- **公共交通がより安全に運行できる道路や駅前広場が必要である**
⇒バス運行ルート上には、歩行者や自転車が多くの道路が存在するため、交通安全施設を乗務員目線で改善する必要がある。⇒自転車走行空間の整備やシェアサイクルの導入等、地域公共交通と自転車の連携が求められている。
- **新技術の活用による交通課題の解決が求められている**
⇒環境に配慮した車両や自動運転等の交通DX化に向けた検討が必要である。⇒レモンキャブの運行管理者の負担を軽減する取組みが求められている。

基本理念

ライフステージに合わせて、多様な移動手段が選択できる
「住み続けたいまち武蔵野」を進化させる

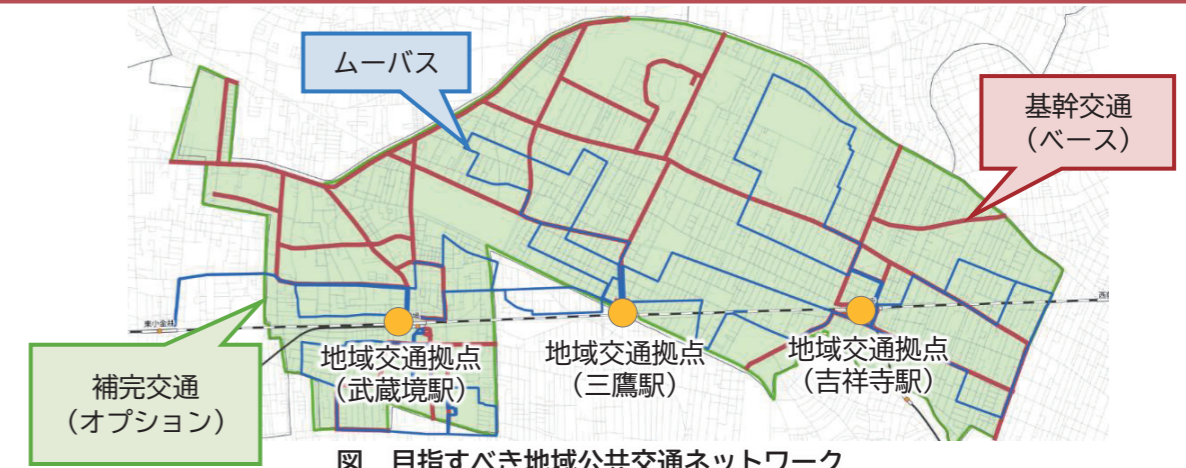


図 目指すべき地域公共交通ネットワーク

4 目標達成のための施策

基本方針	基本施策（10年間を展望）	個別施策（今後5年間で実施）
基本方針① 【ソフト】 担い手確保とサービスの多様化の両立を目指す	基本施策① 担い手確保と持続可能なムーバス運営	①-1 採用活動の強化と多様な採用方法の実施 ①-2 乗務員の負担軽減による離職防止対策の強化 ①-3 乗務員の魅力向上に向けた取組みの実施 ①-4 持続可能なムーバス運営の再構築 ①-5 ムーバスの価値浸透につながる広報の実施 ①-6 近隣自治体や交通事業者との連携強化
	基本施策② 移動に課題を抱える市民に寄り添ったサービス展開	②-1 特に支援が必要な子育て世代への新たな移動支援 ②-2 要支援者等を対象とした新たな移動支援の検討 ②-3 レモンキャブの持続可能な運営体制の検討
基本方針② 【ハード】 インフラ整備により、安全性と利便性の高い交通環境を創出する	基本施策③ 駅前広場・道路空間等の改良・再整備	③-1 「三鷹駅北口交通環境基本方針」等に基づく駅周辺部と駅前広場の交通環境の再整備 ③-2 「吉祥寺駅南口交通環境基本方針」等に基づく駅周辺部の交通環境の改善 ③-3 安全安心に通行できる道路空間の整備 ③-4 バス待ち環境の改善を行う事業者への支援強化
	基本施策④ 地域特性を踏まえた新技術・DXの導入検討	④-1 GTFS データの活用による利用者の利便性向上の検討 ④-2 自動運転技術等の交通DX化に向けた調査・検討 ④-3 環境に配慮した車両の導入・研究